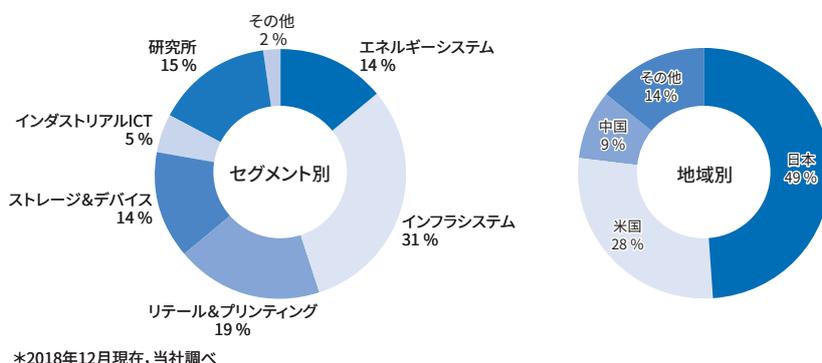


# 知的財産の成果 Achievements in Intellectual Property

東芝グループは、“知的財産による事業貢献（リターン）の拡大”を基本方針として、インフラシステムを核として、エネルギーシステム、ストレージ&デバイス、インダストリアルICT（情報通信技術）の各領域において、事業展開に寄与できるように知的財産の強化や積極的な活用を行っている。

## ■ 知的財産ポートフォリオ

東芝グループでは、事業に応じた知的財産戦略を策定し、事業ごとに最適な知的財産ポートフォリオを構築するとともに、その維持と強化を行い、社外からの評価も得ることができた。



2018年のグローバル保有特許のポートフォリオ

## 発明表彰

平成30年度全国発明表彰【21世紀発明賞】

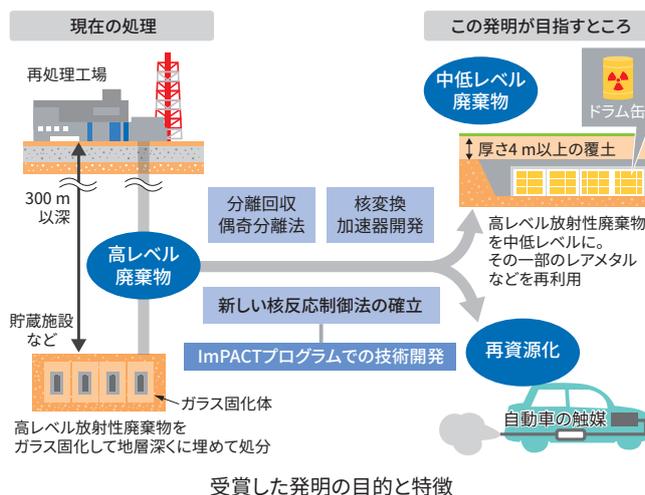
### 放射性廃棄物の処理方法の発明（特許第6106892号）

この発明<sup>(注)</sup>は、高レベル放射性廃棄物に含まれる、半減期の長い核分裂生成物（LLFP: Long-lived Fission Products）の資源化と低減化を目指し、LLFPを取り出して短半減期核種や安定核種に変換する方法として、偶奇分離法と加速器による核変換法を組み合わせた方法を提案した。

半減期の長い奇数核種だけを取り出すには、奇数核種が核スピンを持つことを利用した、偏光レーザーによる偶奇分離法を採用した。核変換で奇数核種を選択的に変換するには、エネルギーのそろった2次中性子を加速器で生成して利用する。例えば、パラジウム（Pd）を例にとると、半減期650万年の核種Pd-107を、偶奇分離法でPd-105とともに取り出し、エネルギーが7～9.5 MeVの中性子を照射して安定なPd-106とPd-104に変換する。核種変換されたPdは、自動車用の触媒などに再利用できる。本研究は、総合科学技術・イノベーション会議が主導する革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）の一環として実施した。

(注) 三つの国立研究開発法人である理化学研究所、日本原子力研究開発機構、科学技術振興機構との共有特許。

これらのほかにも、公益社団法人 発明協会主催の地方発明表彰を多数受賞した。



## 「Derwent Top100グローバル・イノベーター 2018-19」に選出



クラリベイト・アナリティクスが、知的財産動向を分析して世界の革新企業・機関のトップ100を選出する「Derwent Top100グローバル・イノベーター 2018-19」に、当社は8年連続で選出された。